

令和5年度 第2回鴨川市社会教育委員会議 会議録

- 1 日 時 令和6年3月25日(月) 開会：午前10時00分
閉会：午前11時55分
- 2 場 所 天津小湊支所 3階 会議室
- 3 出席委員 (1) 岡野 美智代 (2) 山口 健一 (3) 高橋 和夫
(4) 齋藤 出 (5) 桑原 正法 (6) 畠山 元成
(7) 北本 綾子 (8) 石田 三示 (9) 吉田 明子
(10) 本吉 淳二
- 4 出席職員 (1) 山口教育次長 (2) 岡安課長 (3) 岡安課長補佐
(4) 影山係長 (5) 畑中係長 (6) 洲永主査
(7) 鈴木副主査
- 5 傍聴者 1名

(1) 開会 ※岡安課長

(2) 教育次長あいさつ

(3) 報告

①令和5年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業報告(見込)について ※各担当説明
・質疑応答なし

②令和6年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業計画(案)について ※各担当説明
高橋委員) コロナ禍の収束により公民館活動が活発になると思われるが、公民館としては新しい事業のPRや人を呼ぶための周知方法をどのように考えているのか。チラシ等の制作には費用も発生すると思うが。

岡安補佐) 館内へのチラシの配架をはじめ、広報誌やホームページ、LINE、報道提供等により周知を図って参りたい。チラシについては業者を通さず、職員

が制作することで経費を抑えている。

高橋委員) 郷土資料館では利用促進のための取組を何か考えているか。

畑中係長) 資料館主催の企画展示に加え、市外から貴重な文化芸術資料を借用し、展示することなどにより、市民の文化的教養を高める取組を進めている。

高橋委員) 今年1月に富山県で大きな地震があった。郷土資料館においても関東大震災などの記録写真などがあれば、これらを展示することで防災意識の向上にもつながる。ぜひ、検討願いたい。

畑中係長) 平成2年に市内で竜巻が発生し被害をもたらしたが、当時の記録写真等の資料が郷土資料館に保管されている。今後、それらを活用した企画展示なども検討して参りたい。

本吉委員) 公民館活動について募集の周知はよく見かけるが、活動の結果報告についてはどのようになっているか。活動状況がわかれば参加者の増加につながると考えるが。

鈴木副主査) 各公民館の活動のうち、中央公民館に報告があったものについては、ホームページ等で周知しているが、全ての活動を網羅できていない。今後、公民館長会議を通じて、館外活動等の積極的な報告に努めて参りたい。

岡野委員) 地域学校協働本部に関する事業について、コーディネーターが学校運営協議会と協働本部の間に入り、地域のボランティアを募っている状況となっているが、誰に依頼すれば良いかわからず大変なのではないか。そこで、市の登録ボランティアの活用、小学校と中学校の各地域学校協働本部の一体的な活動、他の中学校区で登録されているボランティアへの依頼等が可能か検討頂きたい。保護者に依頼することは難しく、地域の方々にお願いでできれば良いと考える。

岡安補佐) 学校で困っている事柄をコーディネーターが地域学校協働本部に持ち帰り、地域住民の力で解決することが本事業の目的であるが、市の生涯学習ボランティアとの連携については、どのような活用ができるか検討させていただきたい。

高橋委員) 西条地区では、PTA や育成会に限らず、できる人ができる時に活動できるボランティアを募ろうという動きもある。

齋藤委員) ボランティアに登録すると強制的に依頼されると心配する地域住民が多い。気楽にボランティア活動ができる環境づくりが必要と考える。市には、周知についても支援をお願いしたい。

岡安補佐) ボランティア登録に対する敷居の高さを払拭し、地域住民が参加しやすい環境づくりのために何が必要か、検討して参りたい。

石田議長) 来年度も様々な行事が予定されているが、昨年度以上の成果を目指すのであれば、興味を引くタイムリーな企画を考えるべき。鴨川市と大学との交流事業を多く開催しているので、大学の持つ知的財産や豊かな発想を更に活用したテーマを検討し、参加者増につなげてほしい。

岡安課長) 館山市では昨年、関東大震災をテーマに写真展を開催しており、タイムリーな企画展の事例として参考になる。図書館では毎年、男女共同参画週間に合わせて関連図書の特展展示を行っており、今後も開催の時期やテーマ等について工夫しながら、魅力的な行事を実施して参りたい。

(4) 連絡・その他

「二十歳の集い」の開催に関し、二十歳の参加者の恩師を招くことについて各委員と自由な意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

- ・ 恩師を招くためには、会場や時間の問題、二十歳の方の希望など様々な検討課題がある。この場で良い悪いの即答はできないが、社会教育団体の関係者や二十歳を迎える知り合いに意見を聞き、参考となる意見があれば生涯学習課長宛てに連絡する。
- ・ 若干冷たい発想になるが、生徒目線で言うと、恩師が来て嬉しいという発想になる子が全員とは限らないと考える。先生目線で言うと、招かれた場合にかかなりの負担を感じるのではないかと考える。今の時代、先生に会いたければ同窓会などの環境がある。一律に招くことで強制的に感じる恩師もいるのではないか。必ずしも良いことばかりでは無いことを念頭に検討すべき。
- ・ 今年の「二十歳の集い」に参加したが、鴨川シーワールドという素晴らしい会場

で好天に恵まれた良い式典であった。恩師を呼ぶことは良いことだと思う反面、現在でも会場に参加者が滞留している状況を考えるとき、更に滞留の原因を増やすことはいかなるものか。恩師を呼ぶなど何らかの変更により、会場がシーワールドから変更となってしまうことを危惧する。

仮りに招くこととなった場合でも、恩師が負担を感じないような案内方法を検討してほしい。

- 二十歳の参加者がどう考えるかも重要である。恩師を呼びたいか、会場が変わっても良いか、あるいは、恩師を呼んでもシーワールドに滞留しないようにできるかなどについて、二十歳の集いの参加者に意見を聞く機会が持てると良い。個人的には、会場で参加者の滞留が防げれば、小学6年生と中学3年生の恩師を招いても良いのではと考える。
- 自分の子は20歳の時に県外にいたが、シーワールドでの式典に参加するため鴨川市に戻ってきた経緯がある。会場がシーワールドであることは、参加者増にもつながっていると思う。
- 他市などでは恩師を呼んでいるケースがあるが、市で一斉に集めるのではなく、地区ごとに会場を分散してやっている。本市の特徴として、子ども達にとってシーワールドでやりたいという思いは強いのでは。その思いは優先したほうが良いと考える。談笑の時間が限られてしまうのも、いたしかたないと思う。強制ではなく来れる先生には来てもらい、おめでとうぐらいのアイコンタクトぐらいでも、その場に恩師がいるだけで喜ぶ子どもが増えるのではないか。ただし、その際、時間を延ばしたりするなど恩師との談笑に配慮する必要はないと考える。
- 現状では、せっかく恩師を招いても十分な交流の時間がとれないことから、市として一律に恩師を招く必要はないと考える。同窓会が設定されれば事前に連絡があり、同窓会場で交流の機会を持てば良い。
- せっかく恩師を招いても十分な交流時間がないのは寂しい。子ども達が自分達で同窓会を企画し、その場に恩師を呼ぶほうがお互いにとって良いと考える。子ども達の意見を聞くことには賛成である。
- 個人的にはそのような場に招かれれば、ぜひ参加したいと思うが、教員と生徒の間には様々な関わり方があり、全員が一律に行きたいと思うわけではない。働き方改革の中で通知が届き、行かねばならないことを負担に感じる教員もいるだろう。

式典後に談笑の機会を設ければ必ず滞留の原因となる。それを防ぐには、式典後、恩師だけ別ルートで会場外に退出させなければならない。その場合、挨拶だけして帰ることになり「何をしに来たのか」という思いを恩師に抱かせかねない。おめでたい二十歳の集いに、子ども達に対し繰り返し退出を促すような場面はふさわしくない。

二十歳の参加者の意見を聞くことは構わないが、シーワールドという会場を変えてまで恩師が来ることを望む意見は少ないと思う。

招待状を受け取った恩師が負担に感じるばかりか、せっかく来ても会場がシーワールドでは子ども達との十分な時間がとれないことから、恩師は呼ばずに今の形のままが良いと考える。

- ・ 時間制限のある中で恩師を呼ぶことは難しい。式典後に自分達でクラス会を企画し、そこに恩師を招く形が良いと考える。

(5) 閉会 ※岡安課長

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、会議録の確認をいたしました。

令和6年3月29日

会議録署名人

鴨川市社会教育委員 山口 健一